故事成語 ●蛇足●

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

〔①　　〕の国の司祭者が、召し使いたちに大杯の酒をふるまった。召し使いたちは相談し合って言うには、「何人もでこの酒を飲めば足りないが、〔②　　〕で飲むなら余るほどある。地面に〔③　　〕の絵を、真っ先に描きあげた者がこの酒を飲むことにしよう。」と。ある男が真っ先に〔③　　〕を描きあげた。酒を引き寄せて飲もうとし、左手で杯を持ち、右手で〔③　　〕を描きながら言うには、「私はこれに〔④　　〕も描けるぞ。」と。（その〔④　　〕を）まだ描き終わらないうちに、もう一人が描いていた〔③　　〕が出来上がった。（先の男の）杯を奪って、「〔③　　〕には〔④　　〕はない。どうして〔③　　〕の〔④　　〕が描けるのか。」と言い、そのまま酒を飲んでしまった。〔③　　〕の〔④　　〕を描こうとした男は、結局酒を〔⑤　　〕。

重要語句 次の語句の読みを、送り仮名も含めて現代仮名遣いを用いてひらがなで書きなさい。

(1) 為り（一二六・3）

(2) 乃ち（一二六・4）

重要句形 次の文を書き下し文に改めなさい。

子安能為之足。（一二六・6〜7）

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「吾能為之足。」（一二六・5）について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「之」が指すものを本文から抜き出しなさい。

(2) 現代語訳しなさい。

(3) この言葉にはどのような気持ちが表れているか。次の中から適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。

ア 珍しい蛇を描いて皆を驚かせたいという気持ち。

イ 珍しい蛇を描いて酒を独り占めしたいという気持ち。

ウ 誰よりも速く蛇を描き上げて得意がる気持ち。

エ 誰よりも上手く蛇を描き上げて得意がる気持ち。

2 「終亡其酒。」（一二六・7）について、このような結果になった理由を「蛇」「足」という言葉を使って説明しなさい。